

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：辰野町小野保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>[取り組み状況] 子ども一人ひとりを大切に、保護者や地域から信頼される保育園を理念として、安心して預けられる保育園の基本方針のもと、子どもの一人ひとりの発達を援助し、保護者とともに地域に開かれた子育て支援保育方針のもとに、0～5才までの各年齢に応じた計画が作成されている。</p> <p>[検討課題] 保育課程の定期的な評価を行い、保育所の実態を把握した保育の全体的な計画の作成が期待される。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 □ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 □ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>[取り組み状況] 耐震工事も完了し園舎全体が明るく、保育室も改修され、子ども達がゆったりと生活できている。周囲は田園が広がり、畑作りなどにも最適である。 また、小学校、福祉施設なども近くにあり、散歩コースにも恵まれている。</p> <p>[検討課題] 幼児便所のタイルなどには老朽化が見受けられ、今後の改修は検討課題であろう。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況] 23名の小規模集団なので、一人ひとりの子どもにも行きとどいている。 また、子どもの声を大切にして、保護者からも聞き取りを重ねて保育に活かし、子どもの考えや気持ちをくみとるようにしている。</p> <p>[検討課題] 目の前の子どもの各場面を記録し、エピソードの導入などで、今の子どもの姿を共有し、更に多角的に子どもを見ていくことが期待される。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 <input type="checkbox"/> 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 <input type="checkbox"/> 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの子どもにあわせて、基本的な生活習慣(食事・排泄・清潔・着脱・睡眠)が毎日のくりかえしの中で、習慣化できるように配慮している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>自分の健康の大切さを知り、病気にかからないように手洗い・うがい・歯みがきなど、子ども自身が気付いて自分でしようという気持ちを持てる援助が必要と思われる。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<input type="checkbox"/> 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもが自由に身体を動かして遊ぶ場所や空間がある。また、近くの高齢者施設を訪問してお年寄りと交流する機会や、地域の人から菜の花畑、ワラビ取り、ラベンダー摘みなどの誘いもあり、様々な体験が子どもの育ちを支えている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>地域の高齢者を招待して高齢者からの昔話や遊びなどの体験を聴くなど、子どもにとっての社会資源を明確にするなどして、遊びと生活が豊かになる更なる取り組みが期待される。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<input type="checkbox"/> 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 <input type="checkbox"/> 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 <input type="checkbox"/> 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 <input type="checkbox"/> 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 <input type="checkbox"/> 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 <input type="checkbox"/> 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>0歳児の受け入れを行っていないため、非該当とする。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの子どもの気持ちを大切にしながら声をかけて、ゆったりと安心できるように心がけている。</p> <p>ペットボトルや牛乳パック等を利用した手指を使う手づくり玩具を用意するなど、工夫が視られる。</p> <p>そして、連絡帳を通して、保護者と子どもの成長を共有している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもが自分でやろうという気持ちを沸きたてるような、保育士の更なるスキルアップが期待される。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>各年令とも少人数の為、異年令交流をしており、毎月歌の集会で何曲かを決めて一緒に歌っている。</p> <p>各年令の年間計画を立て、期案を作成し、子どもの姿を把握して援助している。</p> <p>年長児は小学校生活に安心して進められるよう、5月の参観日には園児と小学生の関わりのお机を設けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年長児は就学を見通しての一日の生活のリズムを考慮して、午睡のない生活の配慮は必要と思われる。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>育ちにくさ、困っている子どもの保護者への相談体制があり、年3回保健師、心理士による療育相談が行われている。</p> <p>パニックになってしまった子どもがクールダウンできる部屋を用意するなど、子どもへの配慮もある。</p> <p>[改善課題]</p> <p>育てにくさを感じている保護者の気持ちに共感しながら、相互理解を図る支援の方法を検討・工夫したり、合理的配慮を意識した障害児保育の実践を、園全体の保育の質の向上に繋げる取り組みが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>長時間保育を利用する子どもの人数は少ないが、乳児室に集って、子どもが出席をとり、手遊びをしたり、リズム室で遊んだり、ゆったりと過ごしている。</p> <p>延長保育日誌には子どもの様子の記録、引き継ぎ事項などが記載されている。</p> <p>また、早朝の登園時間、降園児の時間、送迎者までの一覧表で、毎日の家庭の把握は容易である。</p> <p>なお、水分補給は常に気を付けており、6時以降は補食も用意している。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>小学校との関わりが1年間の年間計画の中に作成され、学校のプールやスケート場で一緒に遊ぶ体験や給食などの交流の機会がある。</p> <p>また、保育園と小学校の職員間での研修、参観、連絡会なども多く設けられ、連携が進んでいる。</p> <p>なお、塩尻市、辰野町の両小野学園では、小学校以降の生活の見通しを持てる様にと、保小中一貫教育のコミュニティ・スクールのパンフレットの配布をしており、保・小・中の12年間の連携の効果が期待できる。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>健康マニュアルは作成されており、また、園だよりで感染症の予防法、健康に関する情報を伝えている。</p> <p>一人ひとりの子どもの健康状態を把握するとともに、呼吸確認チェック表にて、未満児は15分おき、3才児は30分おきにプレスチェックを行い、確認をしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>呼吸確認チェック表を園児名も記入できるものとしたり、保護者にもSIDSに関する情報提供は必要と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>[取り組み状況] 年2回の健康診断、歯科検診を実施し、健診結果を保護者に報告し、治療の必要な子どもには医師の治療証明書を提出するようにしている。食後の歯ブラシ指導は3才児から行い、仕上げ磨きのチェックもしている。</p> <p>[検討課題] 治療の必要な子どもの保護者への、保健の大切さの理解を促す更なる援助は必要であろう。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>[取り組み状況] アレルギー児童対応マニュアルが作成され、園長・栄養士・保育士・調理員が共通の情報をもち、対応できるようにしている。そして、医師の食事指導指示書を提出してもらい、保護者と関係職員と面談して対応している。</p> <p>また、アレルギーの子どもには色別したトレーで誤配のない様に配慮し、エピペンの研修は全職員が参加・習得している。</p> <p>[検討課題] 食育の取組を通して、子どもや保護者も含めた食物アレルギーの理解を深めていくことが必要と思われる。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>[取り組み状況] 食育の年間計画が作成され、0～5才までの食育目標があり、栄養士による発達にあわせた献立が作成され、残食も少ない。</p> <p>園の前には広い畑があり、じゃが芋・ミニトマト・ズッキーニ・人参などの作物を育て、給食の材料にもなり、作物の成長を楽しみにしている。</p> <p>また、三色食品群の掲示や替え歌で、食事バランスガイドを意識した取組みもしている。</p> <p>[検討課題] その日の献立をサンプルケースにて展示するなど、保護者にも食に対する関心を高める取組みが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>毎日、検食簿に残食や献立に対する感想が記入されており、年2回栄養士が子どもの身長・体重のチェックをして、発達状況などの検証をしている。また、職員には栄養士から献立内容の説明があり、子どもへの食事支援に役立て、地域のご当地グルメ、ほたる丼やローメン汁などの提供もしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>栄養士がおいしく食べようニュースとして、食育についての発信をしており、保護者へも理解が更に深まる工夫や取り組みが期待される。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>連絡帳を通して保護者に園での生活の様子を伝え、保護者と子どもの成長の喜びを共感している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>園からの連絡は、お便り、連絡帳、掲示、口頭など、各種あり、それらの必要性和ともに、一方通行ではない、記録としての管理体制が期待される。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 □ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>クラスだよりを作って子ども達の様子を伝えたり、必要に応じて連絡事項などをホワイトボードに掲示している。</p> <p>今年度より年中・年長児の保護者に半日保育体験ができる機会を設けて、体験の反省や感想を書いてもらい、保護者から好評である。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者との会話の中での相談内容なども記録として残しておくことは必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 □ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 b) <ul style="list-style-type: none"> ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>[取り組み状況] 朝の視診を大切にして、子どもの表情なども観察している。身体測定で、身体の発育状況や毎日の衣服など、子ども一人ひとりの様子に配慮しており、虐待の発見、初期対応のフローチャートも作成されている。</p> <p>[検討課題] 保護者からの相談、支援を積極的に受け入れて、発生の予防・早期発見・防止の意識を高めるとともに、子どもの権利についての理解を深め、園内で起こりうる虐待についての話し合いなどを通して、常に職員が意識できる環境や体制など、新たな取り組みが期待される。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 b) <ul style="list-style-type: none"> □ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>[取り組み状況] 毎週職員間で保育について振りかえり、子どもとどんな関わりが必要かなど、話し合っている。 そして、今年度より月の歌を3曲決めて、保育士が順番に子どもに歌を教えて効果を上げている。 また、年度末には年度反省と園長との面接もある。</p> <p>[検討課題] 個々の保育士の質の向上に期待するとともに、それが園全体の質の向上へとつながる新たな取り組みが期待される。</p>